

地域自慢の祭りを未来につな
ぎ、蓬萊橋ににぎわいを――

橋の欄干を彩るぼんぼりが、来場者を魅了する「蓬萊橋ぼんぼり祭り」。今年で30回目の開催を迎えました。5月から実行委員会の会長を務める松本さんは、ぼんぼり祭りを通して、蓬萊橋に多くの笑顔を生み出します。

【立ち上げは手探り状態】
長年、祭りの運営に参加する松本さん。初期の様子を振り返ります。

「第1回の祭りが開催されたのは平成6年。蓬萊橋に感謝の気持ちを込めた祭りを開催したいとの思いから、私の父が有志を集めて始めました。その頃の父は、開催に向けた許可申請などで、忙しく各方面に向向していたことを覚えています。当初は、今のようなステージ展



が無く、橋上を舞台にした能や、ぼんぼりを背負って橋を歩く『ぼんぼり行列』などの趣向を

凝らした催しでした。前例のない祭りを作り上げた、当時の運営者には頭が下がります」

【広がる地域の支援の輪】
第4回から祭りの運営に携わった松本さん。開催を重ね



蓬萊橋ぼんぼり祭り実行委員会 会長
まつもとあきひろ
松本明弘さん(横井四丁目)

ると地域に根付き、協力者が増えていったと話します。「第4回からステージ展がスタート。出演者が十分に集まらず、空いた時間にはカラオケ大会をやったこともあり、それが今では、2日

間のステージが出演希望者でいっぱい。1組あたりの出演時間を短縮して、より多くの団体に出てもらえるよう調整しています。また、企業からのサポートも拡大。昔に比べると現在は2倍近くにな

り、今年は約85の企業にご協力をいただきました。コロナ禍を経て厳しい状況にもかかわらず、支援いただけることは本当にありがたいですね。地域を盛り上げたいという皆さんの思いを大切に、今

後も開催していきたいと思
います」

【地域の活気をいつまでも】
松本さんは、今後の祭りへの思いを語ります。

「今年も、多くの人の協力を得て、盛大に開催することができました。200枚の絵で彩られたぼんぼりを飾ると、会場は一気に華やかに。ステージでは多彩な演目が、多くの人を楽しませてくれました。

今後の課題は、このにぎわいを継続させること。残念なことに、祭りの運営を担う実行委員会の会員は、年々減少しています。ピーク時には70人程度いましたが、現在は半数ほどに。高齢化も重なり、今後はさらに運営が厳しくなることが予想されます。しかし、先輩方が作り上げた祭りを、終わらせるわけにはいきません。これからも蓬萊橋のにぎわいが続くよう、来場者と出演者の双方が楽しめる祭りを開催していきます」
地域に根付き愛されるぼんぼり祭り。松本さんたちの手によって、これからも蓬萊橋は笑顔であふれます。



ぼんぼりで飾られた橋上で、三味線の演奏を披露

Shimadajin File #136

Story 島田人